

第2回大洗町立学校のあり方検討委員会 議事録

開催日時：令和8年1月28日（水） 13時30分開始 15時30分終了

場 所：トヨペット スマイルホール 大洗 研修室

出席者：検討委員24名（2名欠席）

事務局6名

1. 開会

2. 教育長あいさつ

第1回の会議で宿題をいただいたものについて、事務局の方で説明をさせていただきながら、皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。このあり方検討委員会は、事務局ばかりで決められないことが多々あり、これからの子どもたちの学習環境のためにどうしたらいいか、皆様にご意見をいただき、方向性を決め、それに向けて進んでいくという形でございますので、皆様のご意見をいただきながら、活発な話し合いをしていきたいと思っております。今後の明るい未来のために、皆様と一緒に当事者意識を持って検討を進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

3. 議事

事務局：議事に入る前に、本日欠席委員が2名おりますが、委員の出席が過半数を超えており、会議が成立していることを報告します。

委員長：議事に入ります。最初に（1）学校の適正規模（望ましい学級数）について事務局から説明願ひます

事務局：資料の2ページをご覧ください。第1回検討委員会の時に別添1として添付しました、文科省の「公立小学校、中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を抜粋して説明します。手引きの冒頭で、学校規模の適正化が課題となる背景が3つ書かれています。1つ目は児童生徒数の減少、学校の小規模化が進む中、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨しながら成長していくためには、一定の集団規模が確保されていることが望ましく考えられるということ。2つ目は地域コミュニティの衰退、世帯あたりの子どもの数の減少といった様々な背景の中で、家庭や地域における子どもの社会性、育成機能が弱まっているため、学校が小規模であることに伴う課題がいつそう顕在化してきているということ。3つ目は、それらの状況によるところではありますが、全国の各市町村において国の標準や通達、手引を参考としながら、それぞれの地域の実情によって学校規模の適正化を検討し、学校の統廃合も進んでいるということです。このような背景をもとにこの手引きが整理されています。参考に、近年の茨城県内の状況を整理しました。直近3ヶ年の状況です。表の通り10の市町村で統合が行われています。義務教育学校に新設したところが二か所ありますが、ほとんどが新設校に統合という形をとっています。大子町と石岡市においては、既存校舎を活用して統合しています。

続きまして、資料の3ページをご覧ください。学校規模の適正化について、検討の際に考

慮すべき観点として示されています。1つ目は、学校教育施行規則による学校の標準は「12学級以上 18学級以下」であるが「特別な事情があるときはこの限りでない」という弾力的なものとなっていることに留意する、という点があります。つまり、現在もこの考えに基づいて学校が運営されているということです。2つ目は、具体的にどのような教育上の課題があるのかを考える必要があるという点です。3つ目が、学級数に加え、学校全体の児童生徒数などの将来推計を総合的に検討することが大切であるということが書かれています。具体的には、学級数に関する基本的視点として「学級数が少ないことによる学校運営上の課題」、「教職員数が少ないことによる学校運営上の課題」、「学校運営上の課題が児童生徒に与える影響」の3つが示されています。それぞれ、記載のとおり細かく整理されており、それらの点によって、4ページに記載の「望ましい学級数の考え方」として示されているものであると理解しています。改めて読み上げると、小学校では全学年で学級替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するため、1学年に2学級以上、全体で12学級以上が望ましいとされており、中学校では全学年で学級替えを可能としたり、学級を超えた集団編成を可能にしたり、同学年に複数教員を配置するため、また、全ての授業で教科担任による学習指導を行うため、1学年に3学級以上、全体で9学年以上が望ましいとなっています。次に、学校全体の児童生徒数に関する視点が、併せて考慮すべき視点として、学校全体の児童生徒数が極端に少なくなった場合の課題が4つ書かれています。手引きの中には様々なことが書かれていますが、特に大切な点はこういった点だと考え整理しました。

委員長：事務局から（1）学校の適正規模（望ましい学級数）について、手引きの概要にポイントを絞って説明がありました。委員各位から、確認も含めてご質問があればお願いします。

委員：質疑なし。

委員長：こちらは適正化の検討にあたり考慮すべき観点・課題についてですが、言い換えれば小規模校のメリット・デメリットをしっかりと整理するということにつながるのではないかと思います。内容を見ると、小規模校のデメリットが強調されておりますが、一方でメリットも存在していると思います。第1回の委員会の際に、南小中学校についてはすでに望ましい状況ではないという話があり、そういう意味での現場目線でのメリット・デメリットも先生からお聞かせ願いたいとの意見がありました。両校から今回資料を準備していただいていますので、議題（2）小規模校のメリット・デメリットについて、先に南小学校の校長先生から説明をお願いします。

南小校長：南小学校は先ほど説明があった適正規模からすると、ずっと少ない人数で開校からここまでできました。今年で10年目を迎えますが、開校当初より隣に南中学校があり、小中連携教育を一つの柱としてここまでやってきました。その中で、メリット・デメリットについて資料を作成しましたので、こちらを中心に話したいと思います。まず、一番のメリットは学習指導にしても生活指導にしても、一人ひとりの子どもに対して先生方の目が届くことだと思います。授業において確かに人数は少ないかもしれませんが、それだけに先生方は一人ひとりの個人の力に合わせた教材を用意したり、授業を工夫して展開したり、そういう点にも一生懸命取り組んでいます。また、本校は1つの学年に1つの学級しかありませんので、異学年の交流も進めています。これは大きな学校よりも多分やりやすい形だと思っています。異学年

ということで1年生から6年生をそれぞれ縦割りの班にして、その中で様々な交流活動ができるようにしています。上級生が下級生の面倒を見たり、下級生が上級生の姿を見て憧れの気持ちを持つとか、そういったことが活動の中では展開されていると思います。また、教材や教具なども一人ひとりに与えられるなど、学習環境が整えやすいと思います。子どもたちは小さい頃から同じクラスでいますので、お互いを良く知り、その中で人間関係が深まる、深まるからこそぶつかることもあると思いますが、そのような経験が出来るということもメリットかと思います。一方、生徒指導面からすればクラス替えを行うことが出来ないのも、児童間の人間関係が一度崩れると、中々その修復には時間がかかるというデメリットもあると思います。ただ、そうならないように、何か悩みがあった時にはすぐ相談してもらって、一緒に解決をしていくような、そういう形で生徒指導はここまでやってきています。また、学校経営、学校運営という面につきましては、職員の人数が少ないので、学校経営委方針を徹底しやすく、全職員で共通理解、共通実践がしやすい環境であると思います。逆に言えば、規模の大きい学校に比べて一人ひとりが担わなくてはならない役割が多い為、教職員の負担は大きいかもしれません。ただ、先生方それぞれが自分の仕事プラスアルファのところで協力し合おうという気持ちを作りやすく、それが出来るというメリットもあると考えています。最後に保護者地域との連携です。これも南小中学校の大きな特性の一つかもしれませんが、地域との連携はとてもしやすいです。大洗小学校ももちろん同じだとは思いますが、とても協力が得られやすいと感じます。コンパクトだからこそ繋がりやすく、見守る体制等も充実していると思います。また、地域の一人ひとりとの密着度合いも強いので、それだけ地域への愛着も子どもたちに醸成出来るのではないかと思っています。逆にデメリットとしては、やはり子どもの数が減れば保護者の数も減りますので、そういう意味でPTA活動などについてはこれから検討の余地があると思います。また、様々なところでボランティア活動の保護者の方に入ってもらっていますが、そちらも減少傾向にありますので、そういった協力体制の部分には幅広く話をしていかなければならない部分かと思います。大まかではありますが、以上です。

委員長：ありがとうございます。続きまして南中学校の教頭先生、説明をお願いします。

南中教頭：大方、先程の南小学校長からお話があった通りですけれども、中学校独自の点というところでお話できればと思います。まず生徒理解と学習指導の面ですが、生徒数が少ないということで、目配り・気配りがしやすいというメリットがあります。一人ひとりの教育ニーズに対応したきめ細かな支援が可能になります。一方で デメリットとしては、専科が一人という場合が多いので、教科指導に関する校内での相談体制がなかなか整わない部分があると思います。学校運営の方では、単学級ですので複数担任制を敷くことが可能です。学年主任がいれば学年主任と担任の複数名で子どもたちを見ることができ、より深い生徒理解につながっていくと考えています。また、これにより担任の先生の業務量の減少にもつながると思います。さらに人数が少ない為、校外学習や学年行事等の講習も短時間で済むなど、フットワークが軽く、指示も通りやすいということも大きなメリットかと思います。 デメリットとしては、やはり生徒数が少ないということで、部活等で制限がかかってしまうことかと思います。特に団体競技、人数が必要な競技については人数が揃わない為に合同チームを作ったり、そもそも参加することが出来ない等、安定的な運営が難しい

部分があります。保護者・地域との連携については、地域との連携のしやすさが大きなメリットかと思います。色々な場面で地域の皆様にはご協力いただき、学校運営の助けになっていただいているなというふうに思います。デメリットについては、保護者の数が少なくなってきた為、PTA 活動の持続性に課題が見られる点かと思います。以上です。

委員長：ありがとうございます。先ほど文科省の手引きも説明しましたが、現場目線でのメリット・デメリットも感じていただきながら協議を進めていけたらと思います。委員の皆様におかれましては、様々な形で教育に関わってこられた方々ですので、それぞれのお立場でこのメリット・デメリットについて感じたことがあれば、ぜひご発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員：私は小学校は大貫小学校、中学校は南中学校に通っていました。小学校から中学校に進学する際、南中学校には大貫小学校と夏海小学校の子どもたちが一緒に通うこととなったり、頭を坊主にしなくちゃいけなかったりと、一つ区切りがあるように感じていました。それに比べて今は区切りが感じられないと思います。小中連携もあるかと思いますが、小学校から中学校に進学する感激のようなものが薄れてきているように感じます。資料を見ると、南小学校はメリット・デメリットが沢山書かれています。一方で南中学校はデメリットが多く書かれています。文章の量で判断するものではありませんが、これを見ると小学校は別々に、中学校は統合でという考え方もあるのではないかと思います。また、今回提示いただいたのは学校自体のメリット・デメリットですが、行政的には統合した方が良いとか、別々でも大丈夫とか、そういったメリット・デメリットについてはいかがですか。

委員長：その点の議論も必要かとは思いますが、まずは望ましい教育環境としてはどうかという視点で議論いただければと思っております。ご指摘のとおり、特に教育行政の立場からの考え方もあるとは思いますが、まずは子どもを中心に考えた場合に、どういった教育環境が望ましいかという点で議論いただければと思います。

委員：私はコミュニティスクールや地域クラブ活動で学校に関わっておりますが、現状の大洗の学校を見るとボランティアの皆さんが一生懸命頑張ってくれているので成り立っている部分が多くあると思います。一方でボランティアの方々の高齢化が進んできているのも事実ですので、スポーツに関することなどは「ゆめタウンスポーツクラブ」などに移行するなど、現時点から考えていく必要があるのではないかと考えております。

委員長：貴重なご意見をありがとうございます。他にありませんでしょうか。

委員：先ほど先生も言っていましたが、子どもを学校に通わせている親の立場としては、先生方は本当に手厚く指導してくれていると感じます。思春期で関わるのが難しい場面もある中、先生方は本当に親身になって指導してくれているなど。これは子どもたちの性格などを良く分かっていないと出来ないことだと思いますし、小中で連携しているからというのはもちろんあるかと思いますが、少人数ならではの良さだと思います。小学校の頃から知っている先生が中学校に入ってから継続して面倒を見てくれるというのは、その子の個性を見ながらアドバイスをしてくれたり、親としては心強く感じましたし、本当に感謝しています。

委員長：ありがとうございます。今回、望ましい学級数に焦点を当てて議論をしていますが、学校

の規模の大小とは別に、クラスの子どもの数の合理性という観点もあるかと思います。

委員：現在は1学級に対して複数の先生が教えてくれているので、子ども達も話しやすい先生に相談することができるなど、単学級ならではの良さもあると思います。他市町村の規模の大きい学校の話を知ると、そこまで先生が子どもに関われない、接している時間がないというような話も聞くので、そこは単学級のメリットだと思います。

委員長：ありがとうございます。他にいかがですか。

委員：PTAの連絡協議会で近隣の市町村の方と話をする機会があり、その義務教育学校の会長さんと話をしたのですが、最初は当事者から結構抵抗があったそうです。でも実際に統合した結果すごい良かったと。問題は残っているものの、統合して良かったという話はされていきました。一方で、同じ近隣でも全校生徒100人くらいで、公設図書館を建てるなどの運営をされていて、これに関しては正解が簡単に出るものではないと思います。無責任な発言になるかもしれませんが、長い目を見た時に、仮に統合が前提なのであれば、小中校一貫でという方向で検討するのもありかなと思います。

委員長：ありがとうございます。他の自治体の意見も聞かせていただきました。他にいかがですか。

委員：私の子どもの学年は単学級ではないのですが、先生方が子どもたちを良く見ているというのは感じます。担任の先生も自分のクラスの子どもだけではなく、違うクラスの子の様子も見てくれていると感じますし、複数のクラスがあった方が子どもたちの個性も豊かに育っていくのではないかと思います。

委員長：ありがとうございます。他にいかがですか。

副委員長：視点は変わりますが、以前小さい学校でスクールカウンセラーをした時に、保護者や地域が小さすぎて、関係性が固定化していると感じたことがありました。もちろん大洗町がそうだとは言いませんが、あまりに同一化してしまうと地域としても活性化できない部分があるので、地域づくりと重ねて、地域が学校にどう関わるか、ただ学校を作るだけではなく、教育方法の部分の協議も必要かと思います。先ほど小さい学校だと子どもと丁寧に関われるという話がありましたが、じゃあ大きくなったらダメかということ、大洗町の先生方はすごく優秀ですし、そうではないと思います。ただ、どうしたら先生方の負担を減らせるかなど、そのような点も地域づくりとあわせて検討していけたらと思います。今の子どもたちの問題の一つは、多様性に関われるということだと思いますが、大きい学校では同一化が起きてしまい、子ども同士が本音で語れなくなったりします。結果、友達関係などもすごくふわっとしてしまっている。これは規模が大きいからそういう訳ではなくて、町の在り方として地域がバラバラになっているのではないかと感じます。なので、私個人としては多様性に関われるという意味では統合もありかと思います。ただその場合には、地域づくりや教師の負担などを同時に考慮していかないと、先生方がきついかと思います。

委員長：ありがとうございます。他にいかがですか。

委員長：先ほど教育行政の観点からどうかのご意見もありましたが、事務局あるいは財政担当課長から何か意見はありますか。

財政担当課長：財政の主管課として事務局に質問したい点があります。色々とメリット・デメリットを整

理することは議論の基本だと思いますが、それを踏まえてこれからより検討が深まっていく時に、財源をどう確保するかという課題が必ず出てきます。そこで、今現在大洗町の教育費で小学校と中学校にどのくらい予算を投じているかというところ、小学校費で1億円、中学校費で約9,500万円になります。ここには教職員を支える会計年度任用職員の費用、給食費や子どもたちが使うタブレットの費用といったものが含まれています。それだけではなく、学校の維持管理には清掃も必要ですし、空調が壊れれば修繕も必要ということで、そのような費用に大体7,000万円ぐらいの予算を投じています。また、今英語教育に力を入れているというところで合わせていくと、今ここで話した内容だけで約3億円の予算を投じているところです。この3億円という数字は単純に学校維持をしていくための経費ではなくて、この町で暮らす子どもたちに学びの場を用意している、3億円を原資に教育に投じているということです。これから議論が深まっていく中で、予算が厳しいのでどちらかに寄るといような消極的な議論ではなく、この3億円という予算をどう活用していくのか、例えば現状のままの活用でいくのか、あるいは今色々な形の統合の意見がありましたが、統合をすることによって、この教育環境を劇的にアップデートしていくのか、そのように予算を集中させていくのかというところも、今後の議論で大事になってくるのではないかと思います。これらの予算的な視点を踏まえて、今現在、事務局が描いている青写真や今後に向けた期待がありましたら聞かせてください。

事務局：あり方を考えていく時に財源の部分は非常に重要な点であると思います。ですが、まずはお子さんをお持ちの保護者や教職員の皆様からアンケートを取って、教育的な視点としてどうかという点を聞きたいと思っています。財源ありきの話では本当の気持ちが聞けないかと思っていますので、まずはメリット・デメリットを含め、学校の状態や教育的な視点に的を絞ってアンケートを取り、それを材料に検討を進めていきたいと思っています。当然今後の検討の中で財源の部分についても触れていきたいと思っています。やり方として町民の方との懇談会のような形や、アンケートといった形も考えられますが、いずれにしてもそういった視点にも触れて検討していきたいと思っています。

委員長：今の説明に対していかがでしょうか。

財政担当課：先程も申し上げた通り、この3億円というのはあくまでも子どもたち、児童生徒に対しての投資ですので、そこを踏まえてしっかりと議論を進めていただけたらと思います。

委員長：今のところ現状のメリット・デメリットといった点を中心に議論しておりますが、同じ原資を使ってより良い教育をするにはどうしたら良いかという議論も必要だと思います。そしてどういった部分に財源を充てていくかというのも今後の議論で触れていく必要があるかと思っています。それを踏まえて、まずは教育現場としてどういった環境が望ましいかという点を先に議論していくということによろしいでしょうか。

委員長：それでは、メリット・デメリットを整理した【別紙2】について、今後どのように活用していくのか、考えがあれば事務局から説明をお願いします。

事務局：先ほど南・小中学校から説明いただいた【別紙2】ですが、それを一つにまとめた上で文科省の手引きなども参考に小規模校のメリット・デメリットを整理したいと思っています。それを今後アンケートを取る際に参考資料として提示したいと考えています。

委員長：分かりました。メリット・デメリットの整理につきましては、今後アンケートを取る際の

資料として活用し、それを参考に皆様方から意見を聞くという考えでよろしいでしょうか。

事務局：はい。数字的なものだけだと分かりにくい部分もあると思いますので、このようなメリット・デメリットについてもお伝えした方が答えやすいかと思い、アンケートに加えたいと考えています。

委員長：分かりました。今事務局から説明がありましたが、方向性としてはこのような方針でよろしいでしょうか。また、この後アンケートの内容については改めてご意見をいただきたいと思います。

事務局：また、事務局としては【別紙1】のようにメリット・デメリットを町報に掲載したいと考えていましたが、先ほど話にあがりました財源的な部分のメリット・デメリットという部分もありますので、そちらの情報はアンケートの材料として使うにとどめ、まずは広く一般の方に見ていただく情報として、町報にはメリット・デメリットを記載しない方向で考えています。

委員長：分かりました。アンケートを取る際には、この教育現場の方から出てきたようなメリット・デメリットを提示した上で意見を聞くと。ただし、町報として広く町民の方々にお知らせする際には、先ほど財政担当課長から話があったように、財源的なことなど幅広くメリット・デメリットを議論した上で情報を出していく必要があると。バランスも大事になってきますので、そこはしっかりと切り分けて対応していただきたいと思います。そのような形で進めてよろしいでしょうか。

委員：メリット・デメリットという話ですが、本日の資料では南小中学校のメリット・デメリットの部分しか分からないので、今後町報やアンケートに情報を入れていくにあたっては、大洗小学校や第一中学校の方のメリット・デメリットの情報もあった方が良いでしょう。

事務局：事務局としては、アンケートの資料として提示するのはあくまでも南小中学校のメリット・デメリットではなく、小規模校のメリット・デメリットという視点で情報を出すべきだと思っています。手引きに書かれていること、そして現場のメリット・デメリットで書かれたものを総合して、「小規模校におけるメリット・デメリットはこういったことですよ」という点をお伝えできればと思っています。

委員：それは分かります。ただ小規模校のメリット・デメリットであれば、現在の大洗小学校と第一中学校の状況として、どのようなメリット・デメリットがあるかという話も聞いた方が良いでしょう。

委員長：非常に大事な指摘だと思います。1学年1学級という小規模校のメリット・デメリットは本日説明いただきましたが、今後どうするかという意味では複数の学級を有する学校のメリット・デメリットについても整理した上で、意見を聞いた方が良いでしょう。

委員：そうすることで南小中学校の保護者やPTAの方も、大洗小学校や第一中学校がどういう状況なのか、現状が分かったうえで検討することが出来ると思うのですが。

委員長：その点はいかがでしょうか。

一中校長：一点よろしいでしょうか。今話し合っている論点は、子どもにとって望ましい教育環境は

何かということだと思います。そうすると、クラス替えが出来ないような環境の学校と、クラス替えが出来る環境の学校の現状をどちらも吸い上げていく必要があると思われました。学校教育を作っていく視点として、子どもの発達保障と学びの質、そして多様な人間関係の中で育つ力という3つの視点があると思います。そういう意味では、クラス替えが出来るような環境の学校の保護者の皆さんにも意見を問うというのは、子どもたちの望ましい教育環境を作る上では必要な情報になり得るのかなと考えます。

委員長：ありがとうございます。

委員：大洗町の成り立ちとして、我々の頃は小学校が4つ、中学校が2つありました。大きく分けると大洗町は磯浜町と大貫町と夏海村があり、それぞれに地域性があります。我々の時代だと地域ごとに子どもの特徴も違うように感じていました。そういったことは今の時代にもあるのでしょうか。

委員：これとは言えませんが、学区でふわっとした違いがあるような気はします。逆に、だからこそ合わせるのも良いのではとも思います。少し話は戻りますが、メリット・デメリットの話の聞いていて思ったのが、小規模校だと1学年先生が1人ということで、少し不安に感じました。人によって合う合わないがあるので、そんな時はどうしているのかなど。複数のクラスがあれば光が見えると、率直な意見として感じました。原状第一中学校では1学年7人、8人ほどの先生が見てくれていると思います。

委員：昨年の出生数はおそらく50人を下回っていると思います。40人程度の出生数ということは、仮に大貫地区が20人、磯浜地区が20人だとすると、どちらも小規模校になるわけです。原状、南小学校は小規模校になっている、大洗小学校はギリギリクラス替えが出来る範囲になっているとしても、これからのことを考えて議論することが子どもたちの為にも非常に重要なことだと感じています。

委員長：ありがとうございます。今はメリット・デメリットの整理になっていますが、現状の出生数からすればいずれ小規模校になるという前提で議論した方が良いということですね。それを踏まえていかがですか。

委員：今後のことを考えるのが一番大事だと思います。ただ、現状を良く分かった上で今後どうするのが一番良いのか、教員の数なども含めてどういう環境が一番良いのか、そこを踏まえて検討できると良いと思います。

委員長：非常に重要な指摘だと思います。ここについては事務局もよく考えて、大洗小学校や第一中学校における現状についても整理して、皆さんに情報を出した上でアンケートを取るということも検討できませんか。

委員：小規模校のメリット・デメリットが出てきますが、アンケートに答えるのは保護者ですよ。保護者は小規模校の事は分かりませんが、複数学級は自分が経験しているので分かっているのではないですか。改めて複数学級を経験している人に問う必要は無いように感じます。

委員：私は子どもがほぼ単学級で育ってきたので、第一中学校の話の聞くまで、複数学級での先生達の関わり方など知りませんでした。そう考えると、アンケートを取った時にどうしても自分の学校の方の意見に寄ってしまう部分があると思うので、他の学校の現状も知れると冷静にアンケートに答えられるのではと思いました。

委員長：ありがとうございます。私自身大規模校で育ちましたので、大規模校の良さは肌身をもって感じておりますが、保護者の方々は必ずしもそういう経験があるわけではないかもしれません。複数の学級を有することの良さを分からない可能性を考慮すると、ある程度情報を出して判断いただくことも大事になってくると思いますので、そこは前向きに事務局で検討していただければと思います。

事務局：分かりました。小規模校のメリット・デメリットだけを提示してしまうと、複数学級を有することのメリット・デメリットという視点では見れなくなってしまうと思いますので、書きぶりを工夫して客観的に見れるようにしたいと思います。

委員長：そこは両方整理してアンケートに臨むという方向でよろしいでしょうか。

事務局：大洗小学校と第一中学校にも資料を作成いただき、事務局に提出していただければと思いますので、よろしくお願いします。

委員長：では、大洗小学校と第一中学校にもご協力いただき、同じように整理して委員の皆さんに配っていただけますか。

事務局：分かりました。

委員長：よろしくお願いします。では、(3) 情報周知について事務局から説明をお願いします。

事務局：資料の別紙No. 2について説明いたします。今月発行した町報で町内小中学校の児童生徒の推移について、また、町内の出生数の現状についてお伝えしたところですが、今回は第2号として学級数の推移と、国県が示す学級編制基準や学校の適正規模などについて、広報紙等に掲載し、広く周知していきたいと考えています。一番上の表については、特別支援学級を含まない通常学級の学級数の推移となっています。この表を見ると、大洗小、南小、一中、南中と色分けしてグラフにしていますが、平成28年度は4校合計で43学級でしたが、年々減少し、令和7年度は31学級、8年度からは見込み値となりますが、13年度はさらに11学級減の25学級と減少していく見込みです。国・県が示す学級編制基準を合わせて見てみると、中学校は8年度から1年生が35人学級となり、その後1年ごとに学年進行で35人学級となります。既に小学校にでは1学級35人となっています。また、文科省においての学校の適正規模は「望ましい学級数」と示されており、小学校については、全学年での学級内や学級を超えた集団で編成できる1学年2学級以上で合計12学級以上、中学校は全学年での学級内や学級を超えた集団編成を可能としたり、教科担任制を確保できる1学年3学級以上で合計9学級以上が望ましいとされています。それを踏まえ、先ほどの学級数の推移の表を見ると、7年度現在で南小、南中、一中においては適正規模の基準を満たしていないという状況であり、大洗小も見込み値では11年度に基準値を満たさなくなる状況が見込まれます。そして、新1年生入学見込数の表については、各年度の新1年生児童生徒の入学見込数を記載したものとなっています。これは、当該年度に生まれた子の現在の居住地をもとに、これまでの推移を加味して試算した値となっています。7年度の新入学児童生徒は大洗小が51人で2学級、南小が25人で1学級、一中が75人で3学級、南中が31人で1学級です。8年度以降の見込み数を計算して学級数にしてみると、年によって多少のばらつきはあるものの、年々人数が減少していき、令和13年度には一中が49人で2学級になる以外は南中が23人、南小が14人、さらに大洗小も32人となることから、各校1学級の入学見込みとなっています。こちらの現状を周知した上で、今後、小中学校や町内保育所に在籍している児

児童生徒の保護者、教職員及び児童生徒にアンケート調査を実施し、意見の聴取をしていきたいと考えております。説明は以上です。

委員長：事務局からの説明で何か意見や確認したい点はありませんか。

委員：表記上の問題ですが、国・県が示す学級編成の成は制度の制かと思うのですが、個の資料では両方使われているので、その点の確認をお願いします。

事務局：制度の制が正しい制ですので、こちらに修正します。

委員：質問ですが、今回の資料で通常学級の推移というのは分かるのですが、一方で特別支援学級は減っていないわけですね。ほぼ一定、もしかしたら増加ということを見ると、将来的に施設の面でまた別の話題が出てくると思うので、これについてはどの段階で検討していくのでしょうか。

事務局：仮に統合となった場合、教室の数など施設的な視点は非常に重要なことです。話にありました特別支援学級の学級数は一定数必要になると考えておりますが、この段階で特別支援学級数の推移まで数字を出してしまうと混乱してしまうかと思っておりますので、現時点では通常学級に絞っての周知が良いと考えています。

委員長：いかがでしょうか。このご指摘は本当に重要なことだと思いますので、今後方向性を議論する時には特別支援学級の状況についても加味して議論を進めたいと思います。よろしくをお願いします。他にはいかがでしょうか。

委員：確認ですが、この資料で示されている学級数というのは1学級35人編成になってからの学級数が書かれているということですか。

事務局：その通りです。

委員：そうすると、例えば13年度の大洗小学校の学級数は10学級とありますが、これは6学年トータルで10学級という意味ですか。

事務局：その通りです。

委員：分かりました。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：確認ですが、令和7年度の小学校の入学生と、13年度の中学校の入学生の数に差異があるのはどういうことでしょうか。

事務局：現実的には私立や県立の中等学校に進学される児童生徒が毎年何名かいますので、これまでの傾向を見ながら若干減少させていることによる差異です。

教育長：ここでは2人ずつ少なくしていますが、現実的にはもっと減っている状況です。ここに記載しているのはあくまでもマックスだと考えています。8年度の南小学校の入学生は17名と記載されていますが、現に15名まで減っていますし、そのような状況です。

委員長：分かりました。その他いかがでしょうか。なければ今の点を修正し、ホームページに掲載するということによろしいでしょうか。

委員：異議なし。

委員長：ありがとうございます。ではそのようにいたします。続きまして、(4) アンケート調査について事務局から説明をお願いします

事務局：内容について説明いたします。配布しました「大洗町立学校のあり方に関するアンケート調査 ご協力のお願い」をご覧ください。こちらは保護者用となっておりますが、こちらをベ

ースに教職員や保育施設の職員にもアンケートを実施する予定です。2ページにはアンケート回答に係る参考資料として、児童生徒数や1年生の入学見込み数などを記載しています。また、3ページには望ましい学級数ということで現在の小中学校の学級数と児童生徒数を記載しています。こちらは幼児教育施設に子どもを通わせている保護者の方が、現状を把握できるように記載しています。この表の下に先ほどから議論しているメリット・デメリットを整理して載せたいと思います。そして、この後からアンケートが始まります。こちらのアンケートですが、いくつかの市町村のアンケートや、以前大洗町の小学校を統合する際に使用したアンケートをもとに作成しました。問1、2、3に関しては基本的なデータを取ることが目的です。問4に関しては対象によって回答する内容が変わってきます。問5からは全ての方が一緒になるように作られています。問7ではソフト面に関して、問8ではハード的な面について聞くというような内容となっています。

委員長：事務局からアンケートの内容について説明がありましたが、こちらの内容について委員の皆様から意見や質問がありましたらお願いします。委員の皆様にはあらかじめ資料を配布してありますので、率直な意見を聞かせていただけたらと思います。

委員：このアンケートはこれからの検討のベースになる、非常に大事なものだと思っております。そこで事務局にお願いしたいのですが、このアンケートは全体的に見ると、今までのままで良いのか、それとも変えるのかという二者選択制になっていると思います。ここで、もし変えるのであればどんな付加価値を付ければ皆が納得できるのかという点をきちんとアンケートから拾う必要があると思いました。例えば、問9で施設の充実や快適な学習など、複数回答可となっていますが、これを重点項目として上から三つ選ぶなど、そういったところを集中させると、このアンケートを答えた方々の思いを踏まえた上で、期待されるラインをしっかりと見据えて議論が出来るのではないかと思います。また、データ分析についてもしっかりとお願いしたいと思います。単純に集計するだけでは、それぞれの立場によってニーズがバラバラなので、きちんとした答えが出てこないと思いますので、そこはしっかりとクロス集計をして欲しいと思います。例えば保護者でも未就学児の保護者や色々な世代でその属性に合わせてしっかりとクロス集計を行うことで、どの層が実際にどんな不安を感じているのか、それからこの検討委員会に何を期待しているのかということが数値化できるのかなと思います。最後に、一番大事なのは問10だと私は思っています。ここで出てくるキーワードをしっかりと分析しマッピングすることで、このアンケートを答えてくれた方の思いを引き出し、その上で今後のあり方検討を進めていければと思います。

委員長：今の指摘に関して事務局からお願いします。

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。1点目に関しては複数回答可だけでは見えない部分を拾えるように参考にしたいと思います。同じような視点で、私たちが一番大事に思っているのは問7で、こちらについても重点的に見つける為には上から三つ選ぶなどのやり方も良いのかなと思いましたが、その辺りもあわせて協議したいと思います。また、分析の件ですが、今回は紙媒体でお渡ししていますが、実際にはweb上で実施したいと考えており、集計についてもしっかりとクロス集計を実施し、よく分析したいと考えています。実際にwebでアンケートを行うにあたり、中身は変わりませんが、画面上の問の展開など少し

変わってくるかもしれませんが、その辺りはご了承いただきたいと思います。三つ目に、問10については声なき声を拾うというところで、少数派の意見も見逃さないように進めていければと思います。

委員長：ありがとうございます。分析のほどよろしく願いいたします。他に何かありますか。

委員：問5-1ですが、「問5の1と2を答えた方にお聞きします」という内容の中の、「⑤学校施設・設備が余裕を持って使用できる」というのはどういう意図でしょうか。

事務局：教室や教材、ICT機器を余裕を持って使えるという意味合いです。

委員：施設というどうしても教室や体育館というイメージが出てきてしまうので、タブレットや備品を指すのであれば表現を変えた方が分かりやすいという気はしました。

事務局：そこについては先生方とも相談して、分かりやすいような表現にしたいと思います。

委員長：ご指摘のとおり、教育環境としての学級数とその施設に余裕があるかどうかについては直接的に結びつきにくいかもしれませんが。この点については少し工夫して表現していただきたいと思います。他にいかがですか。

委員：このアンケートはどう配るのですか。

事務局：紙ではなく、スマホなどの情報連絡ツールでwebで回答してもらう方法を考えています。保育園関係はQRコードを貼った案内を配り、それを読み込んでもらって回答してもらう方法を考えています。

委員：ダブリは大丈夫ですか。

事務局：問3にある通り、2人以上のお子さんがいる家庭では全てのお子さんについて選択していただくのですが、記入上の注意にあるように、アンケートは一番上のお子さん分としてダブリが無いように提出いただく予定です。

委員：教職員や保育者の記入方法はどのようにするのですか。

事務局：問5から下の設問は全てのカテゴリで同じですので変わりません。問1から問3の基礎データが変わってきます。例えば教職員であれば問2が「お勤めの学校をお答えください」となってきます。保育施設従事者であれば「勤務されている保育園はどちらですか」というような違いが出てきます。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：問8に関してですが、文章中で唐突に他の自治体のことが出てきます。これは触れなくても良いのではないかと思います。例えば文の始まりを「町内の児童生徒数が年々減少している中」というような表現にして始まった方が良いかと。他の市町村は統合もしているんですよという再確認、刷り込みが入るような感じなので、どうかと思ったところです。

事務局：確かに、統合ありきではないですよというところの補足のようになってしまっているのので、本質は児童生徒数が減少しているということが最大の要因なので、ここはなくても良いかと思います。

委員長：皆さんはいかがですか。

委員：なくてよいと思います。

委員：もしこの文言を出すのであれば、今日の資料にあった「近年の茨城県内市町村の状況」も一緒に提示してあげると親切かなと思いました。

委員長：事務局でいかがですか。

教育長：私はなくていいと思います。他の市町村がどのようにやっているかは私どもが知っていれば良いのではないかと思います。

委員長：状況としてはここで資料を入れても良いとは思いますが、文言としては取り除くということでもよろしいでしょうか。それではよろしく願いいたします。

委員：文言を取る際には、どこから文章を始めても支障はないと思います。また、選択肢2の表現が少しきつうに感じます。1が「現在の学校配置で良い」ならば、2は「学校の統合を進めても良い」など文言を検討していただけるとありがたいです。

事務局：分かりました。

委員：年齢を答えてもらうというのは必要ですか。

事務局：他の自治体を参考にした際にも年齢も一つの問として入っておりますし、クロス集計をする際にも必要かと思っています。

委員長：委員のご指摘としては、属性によってアンケート作っているの、そこであえて年齢は必要なのかという点ですし、またアンケートに入って来づらいのではという点です。保護者用なら別にいらぬのでは。

事務局：たしかに保護者であれば年齢は関係ないかもしれませんね。

委員：お子さんがどこに通っているかが分かれば良いだけですよ。

事務局：保護者ということであれば年齢を集計する必要はありませんし、お子さんとの関係性も問2で読めるので必要ないかもしれませんが、副委員長どう思いますか。

副委員長：どちらを取るかだと思います。情報としてあつた方が良いとは思いますが、配慮も必要かと。

事務局：副委員長が言われたように、情報としてあつても良いかなという視点が一番大きいです。今後集計する中で情報としてあつても良いのではという思いが強い部分なのですが、検討させていただきたいと思います。

委員：分かりました。

委員長：それでは、事務局の方で委員の意見も踏まえて検討をして下さい。他にいかがですか。

一中校長：アンケート3ページの表の部分の理解が難しいように感じます。例えば第一中学校は1年生が3学級、2年生が2学級、3年生が3学級と表記されており、実際にそうなのですが、特別支援の子どもを抜いた実際の人数からすると、1年生は2学級、3年生も2学級の人数です。ですが、特別な理由により、1年生の場合は県に申請して3学級にさせていただいているという事情があります。3年生の方は町に申請して、2学級を3学級にしているという事情があります。こういった事情があるため、この表を見た時に人数と学級数がよく理解できないのではないかと感じました。

事務局：我々はそういったことがあつての学級編成だということは分かるのですが、ただそこを説明した時にわかりづらいという視点もありましたので、特に注意書き等はしておりませんでした。その部分について、注意書きを入れるということではいかがでしょうか。

一中校長：入れて分かればいいんですが。

事務局：そうしますと、この表に学級数を入れないという選択肢もあるのかもしれませんが。

一中校長：何を伝えたいかによると思うのですが、使う上では責任を持って、根拠が示されないと正確なことが伝わらないというのを懸念しています。

教育長：メリット・デメリットの情報が入ってくれば、学級数の情報はいらないかもしれません。事務局で検討するというところにさせていただいてよろしいでしょうか。

－中校長：懸念されるのは、後から質問や疑問が湧くようなことが含まれる統計だなということです。

事務局：そのような懸念があつてはいけないと思いますので、よく整理したいと思います。

委員長：この表において、第一中学校の2学年がピンクに染まっている理由を教えてもらってもいいですか。

事務局：中学校における望ましい学級数が3学級なので、それを満たしていないということでピンクに染めています。

－中校長：標準でいうと全学年ピンクになります。

委員長：指導室の先生とも協議して頂いて、必要な修正を加えてください。他はいかがでしょうか。では、今出された意見を事務局の方で整理してもらって、その上でアンケート実施としましょうか。

事務局：メリット・デメリットもあり、このままではできない状況ですので、まとまり次第委員の皆様にもメールでお伝えしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

委員長：そのように対応をお願いします。では続きまして(5)今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

事務局：アンケート調査の実施期間ですが、資料5ページに案を書かせていただきました。本日の議論を踏まえてこの通りにいくかは分かりませんが、目標としては3月末に第3回の検討委員会を考えていますので、その時にはアンケートを実施し、集計したものを皆様にお出しして議論いただきたいと考えています。

委員長：分かりました。ただ今事務局からスケジュールの説明がありました。確認ですが、本日出されたメリット・デメリットについての再整理。あわせてアンケートについては必要な修正を加えて、各委員の方に配布し、確認していただいた後にアンケートを実施する。その集計結果を踏まえて、第3回の委員会に臨むということによろしいですか。

事務局：はい。

委員長：今事務局から説明がありましたが、こういったスケジュールで進めてよろしいでしょうか。

委員：異議なし。

委員長：ありがとうございます。それでは次に(6)その他ですけれども、事務局からありましたら発言をお願いします。

事務局：その他は特別ありませんので、第3回の日程についてお伝えできたらと思います。次は3月の26日木曜日の同じ時間で考えていますのでよろしくお願いします。

委員長：学校のあり方について議論が進む中で、皆様色々なことを感じられたかなと思いますが、特に今日発言されていない方で、何かありましたらご発言をお願いします。

委員：一点アンケートについて確認なのですが、次回の委員会の時には集計も終わって結果が出ている状態になるということは、本日これで審議終了ということになるのでしょうか。今回のアンケート資料は保護者用しか見れておりません。今回の会議の中でこのアンケートが一番大事なものだろうと思います。この結果によって今後のあり方検討委員会がどのよ

うに進んでいくかということが決まると思っていますし、そうするとこのアンケートが今回参考資料として出てきただけで本当に済ませてしまって良いのかなという思いがあります。

事務局：本日の議論も踏まえて、アンケートも修正する部分が出てきましたので、しっかりと修正して皆さんに見ていただき、再度意見をいただきたいと思います。アンケートにつきましては、保護者用、教職員用、保育施設従事者用の3種類になるので、それらをデータで送り確認していただけたらと思います。

委員長：では、そのようにお願いします。それでは以上で本日の会議を終了いたします。

事務局：最後に一つ、今回の議事録につきましても事務局でまとめて皆様にご確認いただきたいと思います。確認いただきましたら、それを整理してホームページにアップしたいと思いますので、よろしくお願いします。それでは長時間にわたり大変ありがとうございました。

(閉会)